

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2026



所 属： 人文学科 保育・幼児教育専攻

名 前： 香崎智郁代

作成日：2026年5月10日

教員氏名：香崎 智郁代

所属：人文学部 人文学科 保育・幼児教育専攻

1. はじめに

本ポートフォリオは、大学教育において、教員自身の授業や教育活動への取り組みへの評価が求められるなかにあつて、教育活動全般を振り返り今後の授業、教育活動への取り組みを推進することを目的とする。

2. 教育の責任

九州ルーテル学院大学での私の教育の責任は、主に、人文学科保育・幼児教育専攻における専門科目の担当である。また2022年度から学長補佐（点検・評価担当）として大学全体の質向上への取り組みに尽力している。

2.1. 授業科目の担当

2023年度から2025年度の3年間は以下の表の科目を担当した。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
こどもと環境	1年生後期	約30名	専門必修（講義）
こどもと人間関係	1年生後期	約30名	専門必修（講義）
保育内容（人間関係）	2年生後期	約30名	専門選択（講義・演習）
こどもの理解と援助	3年生後期	約30名	専門選択（演習）
幼稚園教育実習指導Ⅰ	3年生前期後期・ 4年生前期	約30名	専門選択（演習）
保育実習指導Ⅰ	2年生前期・後期	約30名	専門選択（演習）
保育実習指導Ⅱ	3年生後期	約30名	専門選択（演習）
幼稚園教育実習Ⅱ	3年生後期、4年 生前期	約30名	専門選択（実習）
保育実習Ⅰ・Ⅱ	2年生後期、3年 生後期	約30名	専門選択（実習）
職場体験学修（ルーテ ル系幼稚園等）	2年生後期	約30名	学科共通選択（演 習）
教職実践演習	4年生後期	約30名	専門選択（演習）
フレッシュマン・ゼミ	1年生前期	約30名	共通必修（演習）
チャイルドケア・ゼミ	1年生後期	約30名	専門選択（演習）
保育内容の理解と方法	2年生前期・後期	約30名	専門選択（講義・演

I・II			習)
保育内容の理解と方法 III	3年生前期	約30名	専門選択(演習)
特別研究	3年生後期	約6名	専門必修(演習)
卒業研究	4年生前期・後期	約6名	専門必修(演習)

教育を担当する科目は保育・幼児教育専攻必修科目、選択科目である。そのうち、幼保系免許、資格に関わる科目を主に担当している。

■ 主要担当科目

「保育内容「環境」」

幼稚園教諭免許状、保育士資格を取得するための必修科目の一つである。講義のなかで情報機器の活用も適宜取り入れた演習や身のまわりにある素材等を使用した遊びを実際に体験することで、子どもと環境との関わり方の大切さを学ぶことを目的としている。学外の公園での自然遊びも取り入れ、より実践的な学びが可能になるよう取り組んでいる。

「保育内容「人間関係」」

幼稚園教諭免許状、保育士資格を取得するための必修科目の1つである。講義のなかで、情報機器の活用も適宜取り入れた演習や実際保育現場での事例を取り入れた検討や人間関係にかかわる心理学、社会学的な知見も交えて、子どもの人間関係を育んでいく意味やその方法について具体的に学ぶことを目的としている。

「こどもの理解と援助」

これまでに学んだ知識を基に、保育者として実践できるようにすることを目的とした科目である。そのため、様々な科目のなかで得た知識を再確認しながら、事例検討やグループワーク等、アクティブラーニングを取り入れ、実際の具体的場面において、発達・教育を支援していく方法、あり方について学ぶことを目的としている。

「幼稚園教育実習Ⅰ」

幼稚園教育実習の事前・事後指導の授業である。同じ保育現場であっても、保育所、幼稚園、認定こども園のそれぞれに特徴があることから、その特徴と学校教育のなかでの幼稚園の位置づけを踏まえて、事前指導では、幼稚園教育実習を実施する上での基礎知識及び、実習に行く上での態度を身に付けることを目的としている。事後指導においては、幼稚園教育実習での内容を振り返り、今後の課題を明確化するとともに、自分の保育者像を検討していくことを目的としている。

本学以外での教育実践は以下のようなものがある。

■ 非常勤講師・研修等

- ・熊本学園大学（年齢別保育 A）
- ・尚綱大学短期大学部（社会福祉～2023 年度まで）
- ・熊本市子育て支援員研修講師（子どもの障害、児童虐待と社会的養護、地域型保育内容、特別に配慮を要する子どもへの対応、総合演習）
- ・熊本県子育て支援員研修講師（乳幼児の発達と心理、乳幼児の生活と遊び、地域保育の環境整備）
- ・大分市保育士等キャリアアップ研修講師（乳児保育）
- ・熊本市保育士等キャリアアップ研修講師（子育て支援）
- ・熊本県保育士等キャリアアップ研修講師（子育て支援）

（2）教育組織運営

2022 年度から、学長補佐（点検・評価）として、ルーテルビジョン 2020 の点検・評価を通して、大学全体の質向上に向けて取り組んでいる。2025 年度はルーテルビジョン 2020 開始 5 年という節目を迎え、5 年間の振り返りを行う中間評価を実施した。今後 5 年間でルーテルビジョン 2020 に掲げられた目標を達成できるよう後押ししていきたい。

3. 教育の理念

私は本学での教育活動において、以下の 2 点を重視している。

- 1) 内省する保育者を養成する。
- 2) 現場で活かせる知識や技術を身に付ける。

3.1. 理念 1 内省する保育者を養成する。

保育現場は忙しく、しなければいけないことに追われることが多い職場である。そのなかであって、子どもの発達段階や興味・関心を踏まえ、子どもが主体的な活動ができるような活動を計画し、環境構成し、実施していくことが求められている。それらを実施していくためには、まずは子どもの実状や自分の保育内容を振り返り、考察する力が求められている。それは一朝一夕にできるものではなく、学生時代からのトレーニングが必要であると考えている。そのため、授業のなかで自分の保育活動を振り返り、評価するという機会をできるだけ増やしていきたいと考えている。

3.2. 理念 2 現場で活かせる知識・技術を身に付ける

理念 1 に述べた、内省する保育者については保育者の見えない力として必要であると

考える一方で、同時に実践力としての知識・技術を身に付けることも求められていると考えている。これは、現場にたったときにすぐにでも子どもを惹きつけ、まとめていく力である。特に、就職してからは手遊びや指遊びを覚えたり、制作物などの作成の時間も限られていることから、授業のなかでそれらを取り上げ身に付けていくことが必要だと考えている。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法をとっている。

4.1. 自分の学びを振り返る機会をつくる

担当している実習関係科目においては、実習現場もそれぞれ異なり、課題や置かれた状況も異なることから、それぞれの課題や状況を細かく、丁寧に聞き取り実習に対する苦手意識をなくし、実習がよりよいものとなるように対応することを念頭において教育を行うことに配慮している。そのなかで、実際に自分の実習がどのような状況であったのかを振り返り、自分の課題や自分のなりたい保育者像も明確になるような機会を設けるようにしている。

4.2. 机上の学習と現場での学びの往還を念頭においた指導を行うこと。

保育者養成は、机上の学習と同時に保育現場での学びも重要である。そのため、例えば卒業研究では、授業の一環として地域の子育て支援サークルに出向き、そこで実際に子育て中の保護者や乳幼児と触れ合うことにより、これまで机上で学んできた学習内容を実際に体感できるような取り組みを実施している。また、私自身が現場の保育者と保育環境についての研修を経年的に実施するなかで得た気づきや学びを授業のなかで学生に還元できるように取り組んでいる。さらに、保育者は豊かな生活力が必要であると考えている。小さいころからの自然活動や体験活動が少なくなってきた昨今の状況を踏まえ、それらを補完するためにも学生時期に様々な自然体験や保育現場での体験、子どもと触れ合う活動を授業内で取り入れるようにしている。

5. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

各学期の終わりに実施されている授業評価アンケートをもとに、自分の授業内容を振り返り、改善するようにしている。

5.2. 改善努力2 各学会や研修会への参加

現在の保育現場の状況や知見を得るために、各学会大会に参加をしたり、研修会に参加したりしている。それらから得た知見については、授業内でも還元できるよう取り組ん

でいる。

6. 教育の成果・評価

保育内容「環境」、保育内容「人間関係」、幼稚園教育実習Ⅰ、こどもと環境、こどもと人間関係など各科目においてすべての平均値を上回っていることから、一定程度学生からの評価を得ていると考えられる。今後も学生からの評価に耳を傾けながら教育に従事していきたいと考えている。

7. 今後の教育に関する課題と目標

学生が将来目指す保育者像を明確にするには、保育実習、幼稚園教育実習という実習科目のなかで、スムーズな実習を行うことが不可欠である。実習中に不安や心配、悩みを抱える学生も数多くいることから、円滑な実習実施は継続した課題である。それらに対応していくためには、常日頃から実習施設と連携・協働関係を構築していくことが必要であるとする。具体的には、実習についての丁寧な説明を行っていくことや幼稚園教育実習指導Ⅰや保育実習指導Ⅰ、Ⅱにおいて、現場の保育者からの講話を交えた授業を展開していくこと、また保育現場に向けた様々な研修を通して、連携・協働した取組みを推進していきたい。さらには、学生一人ひとりに丁寧に向き合い、それぞれの不安や悩みに対応していきたいと考えている。

根拠資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果